

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200503		
法人名	富田ケアセンター有限会社		
事業所名	グループホーム富田の里 (黄桃ユニット)		
所在地	倉敷市玉島道口2752-1		
自己評価作成日	令和 1 年 10 月 26 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan1=true&amp;JigyosyoCd=3390200503-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan1=true&amp;JigyosyoCd=3390200503-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 1 年 11 月 12 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が「ここに来てよかった」と思っただけのよう、常に要望を伺いながら生活全般にわたる支援ができるようにしています。また、ご家族様には、日々のご様子を出来る限りでお伝えし、施設入居を選択したことを後悔されないような配慮を心掛けています。体調を崩された時は、医療(主治医)との連携を図り、重度化しないよう迅速な対応を行っています。看護師が常勤で勤務しており異常の早期発見に努めています。また、介護職員においては、認定特定行為業務従事者が現在4名在籍しています。実習中の者もあり、今後も増える予定です。歯科衛生士が常駐していることで、口腔ケアにも力を入れています。地域の方々との交流の場にも参加できるような機会を設けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所主催の夏祭りには、学生ボランティアや地域の子供から大人まで大勢参加しており、地域的一大イベントとなっている。また、地域に向けて「介護力向上教室(法人主催)」を開くなど、事業所の力を最大限に活かしながら、地域社会に貢献する取組みを積極的に行っている。そして、管理者や職員の意見や要望を反映すべく、法人内で専門の人を配置するなど、職員が働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念を毎朝、朝礼で唱和している。会社理念と、施設理念をスタッフルームに掲示し、いつでも見られるようにしている。	朝礼時に全職員で理念を唱和すると共に、スタッフルームに掲示し周知を図っている。また、毎月の部署会や年度末に理念を振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年行っている夏祭りは、地域の方々が参加していただける行事として開催している。地域の秋祭りは、千歳楽が事業所へ来て下さり、交流の場となっている。近くの保育園の園児達と交流する機会を設けている。秋の親睦旅行に参加し、他事業所の利用者様や地域の方々との交流の場となっている。	事業所主催の大規模な夏祭りには、学生ボランティアや地域の方が大勢参加している。また、地域の夏祭りに神輿が来たり、近隣の保育園児が慰問に来たり、法人内の保育園へ遊びに行ったりするなど、地域と交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	会社全体で介護力向上教室を開催し、認知症についてや、介護保険制度などをテーマに講座を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月毎に運営推進会議を開催し、GHの活動報告をさせていただいている。また、その中で、質疑を受け今後の活動に活かせるようにしている。	介護保険課や高齢者支援センター、愛育委員、老人会等が集まり、2ヶ月に1回定期的に開催している。活動内容を報告したり、身体拘束について話し合ったり、入居までの流れについて事例を基に説明したりしている。	案内等を全家族へ通知することに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には老人クラブ、民生委員、愛育委員、高齢者支援センター、介護保険課の方、協力医療機関のMSW等、参加していただいている。	市町村との連携はセンター長が行っており、運営推進会議の中で内部情報や現状について積極的に伝えている。また、分からないことや聞きたいことがあれば、指導監査へ電話したり直接出向いたりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針、身体拘束等の排除の理念及び方針を定めている。また、定期的に身体拘束についての勉強会を行い、資料は何時でも閲覧できる場所へ置いている。	研修委員会やコンプライアンス委員会の中で身体拘束に関する勉強会を開いている。また、指針をスタッフルームに掲示し周知すると共に、運営推進会議の中で現状報告している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止に関する資料を基に知識を深める機会を設けている。また、資料は何時でも閲覧できる場所へ置いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会社全体での社内研修で学ぶ機会がある。また、資料は何時でも閲覧できる場所に置いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、一項目ごとに内容を説明し、納得いただいた上で署名、捺印をお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた時は、ゆっくり話ができる時間が取れるようにしている。また、要望があった場合は、職員全員に周知徹底をしている。	面会や電話、五部署会議、日常生活の中で、意見や要望を聞き取っている。出た意見等は、ドライブや市外のイベント参加、外出機会の創出等に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、部署会を開催し、職員の意見交換の場になるような機会を設けている。	定期的にセンター長と面談する機会を設けており、話しやすい環境・雰囲気作りに努めている。出た意見や提案は、勤務環境の整備や労務管理等に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期に1度ずつ、個人評価シートを用い個々の評価を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回、社内研修を行っている。また、資格取得ができるよう介護福祉士実務者研修の開講や、医療的ケアの研修を受講し、実習機関で実習することで認定特定行為業務従事者の資格取得など積極的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他機関での勉強会などにも積極的に参加をし、情報交換等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、事前面談を行い、ご本人自身からも不安に思うことや、要望等、事細かに伺うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より話し合いの場を複数回設け、信頼関係の構築に力を入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を踏まえたケアプランを策定している。必要に応じ、福祉用具の実費レンタルを利用している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	過剰な介護は避け、自分では自分でできることは自分でやっ手数料いただくようにしている。また、職員と協力しながら家事等を進めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間に制限はなく、何時来ていただいても結構である旨を家族に伝えている。また、行事に参加を促し、共に過ごす時間が持てるよう案内状を発送したり、口頭でお伝えしたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の場を提供したり、馴染みの場所を聞き、外出支援を行っている。	定期的に行きつけの美容院へ通う利用者や馴染みのかかりつけ医を継続する利用者など、個々の生活習慣を尊重している。また、よく行った公園や神社へドライブに出かけたり、お茶好きな人はお茶屋さんへ行ったりしている。年賀状のやり取りや電話の取次ぎにも対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は、共有スペースで過ごす時間を設けている。また、入居者同士の人間関係を把握し、トラブルにならないような配慮をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の様子を伺うようにし、情報が途切れないようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から、要望などが聞き取れるようにしている。	普段の会話から暮らしの希望等を把握している。困難な場合は、利用者の表情や言動、仕草から把握したり、利用者が書いたメモ帳を参考にしたりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から、本人、ご家族、担当のケアマネジャーやソーシャルワーカーなど各方面から情報を聴取し、できるだけ詳しく把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人ごとの申し送りや、記録により情報の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント、モニタリングの中で問題が生じた場合は、現状に添った介護サービスが提供できるように介護計画を検討している。	家族や主治医から聞き取った情報等をカンファレンス(毎月)の中で共有し、個々の生活ニーズに沿ったケアプランを作成している。基本、モニタリングは3ヶ月毎に行っているが、状態が変化した時はその都度見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の行動や精神状態など、観察事項を記録し、細かいことも職員間で共有できるよう申し送りを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに沿って利用できる介護保険事業所を紹介し、移行がスムーズにできるようにしている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる催し物を開催していただき、互いに楽しい時間を過ごすなどの協力体制がある。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族が希望される主治医にかかり、定期的な受診を行っている。体調不良時も迅速に対応できるようにしている。	ほとんどの利用者及び家族は、かかりつけ医を継続している。かかりつけ医への受診は家族と職員で連携して対応している。また、月2回協力医による定期訪問もあり、24時間体制で適切な医療を提供している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤で勤務している。日々の様子観察を行い、異常があれば報告をし、連携を図っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、病院へ情報提供シートを持参し、日頃の様子や、入院までの経過を申し送るようにしている。また、退院時は、入院中の経過や退院後のフォローを担当看護師やソーシャルワーカー等とのカンファレンスを通じて情報交換を行っている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応に関する指針、看取り介護指針を定め、主治医、ご家族、職員と話し合いを十分に行う。最期までその方らしく生活できるように自然体で過ごしていただく。また、看取り終了後は、ご家族、職員共にアンケートを行い、次回の看取りに役立てている。	契約時、重度化対応及び看取り介護に関する指針を渡し、説明している。重度化した場合は、主治医が利用者・家族に説明し、同意書を交わしている。看取りの後、家族・職員にアンケートを行い、部署会で集計した結果について話し合っている。また、部署会の中で看取りの勉強会も行っており、法人全体で看取り支援に取り組んでいる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを何時でも閲覧できる場所に置いている。また、定期的に、事業所内で研修を行い周知徹底を図っている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、避難経路や避難場所の確認を行っている。消火器(水)を使ってからの消火訓練や通報装置からの通報訓練を同時に行っている。また、消防署からの講評をいただいている。	年2回、小規模及びデイサービス合同で火災・地震を想定した訓練を行っている。その際、利用者も参加している。また、内1回は消防署の立会いもあり、意見やアドバイスを貰っている。マニュアルを整備し、運営推進会議の中で参加を促している。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の個性を尊重し、その方に合った接し方ができるよう心掛けている。	よそよそしい、馴れ馴れしい言葉かけは行っており、〇〇さんを基本とし、各利用者に合わせて反応が良い呼称(先生等)で対応している。日々接遇に関して力を入れており、内部で勉強会も行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自由に発言できるようにし、日々の会話の中で本人の思いをさりげなく聞き出し、自己実現できるよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、受容、傾聴の姿勢を意識し、一人一人の意向に沿った生活ができるように努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣等、自分で選べる方は、自分でコーディネートしていただいている。自己決定が難しい方は、季節に合った着衣を職員が選び、ご本人に確認後、着用していただいている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人に伺いながら、簡単な作業は一緒に行っている。同じテーブルで職員も一緒に食事し、会話しながら楽しい時間になるように努めている。	誕生日に手作りケーキを作ったり、食べたい物を提供したり、家族が好物を作って持て来たりしている。また、自宅で使用していた茶碗等を使用したり、季節の行事ごとに献立を工夫したりして、家族と連携しながら楽しく食事が出来る様に支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った食事形態とし、食べやすく工夫している。食欲がない場合には、食べたい物を伺い、少しでも食べていただけるような配慮をしている。時間毎に水分補給を促し摂取量が確保できるようにしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、自力でできるところはやってもらっている。義歯の方は外し、洗浄、磨き残しは職員が介助している。常駐の歯科衛生士や訪問歯科の方から口腔ケアの手法等を学び、実践している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者毎の排泄表を記入し、職員が把握しやすいようにしている。オムツを使用している方も、トイレでの排泄を忘れないよう定期的なトイレ誘導を行っている。	各利用者の排泄パターンに合わせて、昼間はトイレ誘導している。夜間はポータブルトイレを使用したり、利用者の状態に合わせてオムツ対応したりしている。定期的なトイレ誘導することで、改善に向かっている人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士が立てた献立により、バランスの良い栄養管理ができるようにしている。水分摂取量の確保や排泄リズムの把握をし、なるべく自然排便に繋がるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望を伺いながら入りたい時に入れるようにしている。拒否がある時は無理強いしない。体調を考慮しながら2日毎くらいの間隔で入浴を行っている。	週2～3回の入浴を基本としているが、希望があれば毎日の入浴も可能である。各利用者の状態・状況に合わせて、足浴・清拭・シャワー浴にも対応している。また、出来るだけ同性介助に努めたり、季節湯や入浴剤を活用しながら、楽しく入浴できる様に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、しっかり活動し、夜間はゆっくり休んでいただけようになっているが、昼間でも午睡が習慣になっている方には本人の気持ちを優先している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を基に確認、把握ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人ずつの生活歴や職歴、普段の会話などから、好きなことを導き出し、脳トレやおやつ作り、手芸などやりたいことが楽しめるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の体調に合わせ、外出が可能であれば買い物やドライブ、近くの公園等に出かけている。	敷地内を散歩したり、ベランダで布団を干したりする利用者の他、水やりが日課の利用者もいる。また、職員と一緒に神社や公園へドライブに出かけたり、家族と一緒に家に戻ったり、墓参りへ出かけたりしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に個人の預り金を持参し、買いたい物が購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば、電話での会話もできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度計を確認しながら空調に気をつけている。コアクリン水の加湿器を用い、空間除菌を行ったり、換気にも気を配っている。キッチンから、食材を切る音や総菜のにおいがたまたよい生活感がある。	カウンターテーブルの上に花を飾ったり、利用者の書き初め作品を壁面に掲示したりするなど、室内にいても季節が感じられる様に工夫している。また、懐かしい思い出等を見て楽しんでもらえる様、行事や家族と一緒に撮った写真をホールや廊下に掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでの座る席は固定されておらず、その日、その時にご本人が決められている。ソファに座ったり、必要に応じ、居室に椅子を持ち込んだりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込まれる物には制限はないことを、入居前に説明している。	馴染みの家族写真や帽子、布団、観葉植物など、自由に持ち込み可能であり、個々の生活習慣や趣味嗜好に配慮した居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	足元に障害物をなるべく置かないように環境を整備し、一人で歩かれても危険が少ないように配慮している。トイレの表示をし、場所がわかるようにしている。居室のドアには名前や写真を表札替わりにし、自分の部屋であることがわかりやすいようにしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200503		
法人名	富田ケアセンター有限会社		
事業所名	グループホーム富田の里 (白桃ユニット)		
所在地	倉敷市玉島道口2752-1		
自己評価作成日	令和 1 年 10 月 26 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan1=true&amp;JigyosyoCd=3390200503-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan1=true&amp;JigyosyoCd=3390200503-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 1 年 11 月 12 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が「ここに来てよかった」と思っただけのよう、常に要望を伺いながら生活全般にわたる支援ができるようにしています。また、ご家族様には、日々のご様子を出来る限りでお伝えし、施設入居を選択したことを後悔されないような配慮を心掛けています。体調を崩された時は、医療(主治医)との連携を図り、重度化しないよう迅速な対応を行っています。看護師が常勤で勤務しており異常の早期発見に努めています。また、介護職員においては、認定特定行為業務従事者が現在4名在籍しています。実習中の者もあり、今後も増える予定です。歯科衛生士が常駐していることで、口腔ケアにも力を入れています。地域の方々との交流の場にも参加できるような機会を設けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所主催の夏祭りには、学生ボランティアや地域の子供から大人まで大勢参加しており、地域的一大イベントとなっている。また、地域に向けて「介護力向上教室(法人主催)」を開くなど、事業所の力を最大限に活かしながら、地域社会に貢献する取組みを積極的に行っている。そして、管理者や職員の意見や要望を反映すべく、法人内で専門の人を配置するなど、職員が働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念を毎朝、朝礼で唱和している。会社理念と、施設理念をスタッフルームに掲示し、いつでも見られるようにしている。	朝礼時に全職員で理念を唱和すると共に、スタッフルームに掲示し周知を図っている。また、毎月の部署会や年度末に理念を振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年行っている夏祭りは、地域の方々が参加していただける行事として開催している。地域の秋祭りは、千歳楽が事業所へ来て下さり、交流の場となっている。近くの保育園の園児達と交流する機会を設けている。秋の親睦旅行に参加し、他事業所の利用者様や地域の方々との交流の場となっている。	事業所主催の大規模な夏祭りには、学生ボランティアや地域の方が大勢参加している。また、地域の夏祭りに神輿が来たり、近隣の保育園児が慰問に来たり、法人内の保育園へ遊びに行ったりするなど、地域と交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	会社全体で介護力向上教室を開催し、認知症についてや、介護保険制度などをテーマに講座を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月毎に運営推進会議を開催し、GHの活動報告をさせていただいている。また、その中で、質疑を受け今後の活動に活かせるようにしている。	介護保険課や高齢者支援センター、愛育委員、老人会等が集まり、2ヶ月に1回定期的に開催している。活動内容を報告したり、身体拘束について話し合ったり、入居までの流れについて事例を基に説明したりしている。	案内等を全家族へ通知することに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には老人クラブ、民生委員、愛育委員、高齢者支援センター、介護保険課の方、協力医療機関のMSW等、参加していただいている。	市町村との連携はセンター長が行っており、運営推進会議の中で内部情報や現状について積極的に伝えている。また、分からないことや聞きたいことがあれば、指導監査へ電話したり直接出向いたりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針、身体拘束等の排除の理念及び方針を定めている。また、定期的に身体拘束についての勉強会を行い、資料は何時でも閲覧できる場所へ置いている。	研修委員会やコンプライアンス委員会の中で身体拘束に関する勉強会を開いている。また、指針をスタッフルームに掲示し周知すると共に、運営推進会議の中で現状報告している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止に関する資料を基に知識を深める機会を設けている。また、資料は何時でも閲覧できる場所へ置いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会社全体での社内研修で学ぶ機会がある。また、資料は何時でも閲覧できる場所に置いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、一項目ごとに内容を説明し、納得いただいた上で署名、捺印をお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた時は、ゆっくり話ができる時間が取れるようにしている。また、要望があった場合は、職員全員に周知徹底をしている。	面会や電話、五部署会議、日常生活の中で、意見や要望を聞き取っている。出た意見等は、ドライブや市外のイベント参加、外出機会の創出等に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、部署会を開催し、職員の意見交換の場になるような機会を設けている。	定期的にセンター長と面談する機会を設けており、話しやすい環境・雰囲気作りに努めている。出た意見や提案は、勤務環境の整備や労務管理等に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期に1度ずつ、個人評価シートを用い個々の評価を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回、社内研修を行っている。また、資格取得ができるよう介護福祉士実務者研修の開講や、医療的ケアの研修を受講し、実習機関で実習することで認定特定行為業務従事者の資格取得など積極的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他機関での勉強会などにも積極的に参加をし、情報交換等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、事前面談を行い、ご本人自身からも不安に思うことや、要望等、事細かに伺うようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より話し合いの場を複数回設け、信頼関係の構築に力を入れている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を踏まえたケアプランを策定している。必要に応じ、福祉用具の実費レンタルを利用している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	過剰な介護は避け、自分では自分でやっ手数料いただくようにしている。また、職員と協力しながら家事等を進めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間に制限はなく、何時来ていただいても結構である旨を家族に伝えている。また、行事に参加を促し、共に過ごす時間が持てるよう案内状を発送したり、口頭でお伝えしたりしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の場を提供したり、馴染みの場所を聞き、外出支援を行っている。	定期的に行きつけの美容院へ通う利用者や馴染みのかかりつけ医を継続する利用者など、個々の生活習慣を尊重している。また、よく行った公園や神社へドライブに出かけたり、お茶好きな人はお茶屋さんへ行ったりしている。年賀状のやり取りや電話の取次ぎにも対応している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は、共有スペースで過ごす時間を設けている。また、入居者同士の人間関係を把握し、トラブルにならないような配慮をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の様子を伺うようにし、情報が途切れないようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から、要望などが聞き取れるようにしている。	普段の会話から暮らしの希望等を把握している。困難な場合は、利用者の表情や言動、仕草から把握したり、利用者が書いたメモ帳を参考にしたりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から、本人、ご家族、担当のケアマネジャーやソーシャルワーカーなど各方面から情報を聴取し、できるだけ詳しく把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人ごとの申し送りや、記録により情報の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント、モニタリングの中で問題が生じた場合は、現状に添った介護サービスが提供できるように介護計画を検討している。	家族や主治医から聞き取った情報等をカンファレンス(毎月)の中で共有し、個々の生活ニーズに沿ったケアプランを作成している。基本、モニタリングは3ヶ月毎に行っているが、状態が変化した時はその都度見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の行動や精神状態など、観察事項を記録し、細かいことも職員間で共有できるよう申し送りを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに沿って利用できる介護保険事業所を紹介し、移行がスムーズにできるようにしている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる催し物を開催していただき、互いに楽しい時間を過ごすなどの協力体制がある。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族が希望される主治医にかかり、定期的な受診を行っている。体調不良時も迅速に対応できるようにしている。	ほとんどの利用者及び家族は、かかりつけ医を継続している。かかりつけ医への受診は家族と職員で連携して対応している。また、月2回協力医による定期訪問もあり、24時間体制で適切な医療を提供している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤で勤務している。日々の様子観察を行い、異常があれば報告をし、連携を図っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、病院へ情報提供シートを持参し、日頃の様子や、入院までの経過を申し送るようにしている。また、退院時は、入院中の経過や退院後のフォローを担当看護師やソーシャルワーカー等とのカンファレンスを通じて情報交換を行っている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応に関する指針、看取り介護指針を定め、主治医、ご家族、職員と話し合いを十分に行う。最期までその方らしく生活できるように自然体で過ごしていただく。また、看取り終了後は、ご家族、職員共にアンケートを行い、次回の看取りに役立てている。	契約時、重度化対応及び看取り介護に関する指針を渡し、説明している。重度化した場合は、主治医が利用者・家族に説明し、同意書を交わしている。看取りの後、家族・職員にアンケートを行い、部署会で集計した結果について話し合っている。また、部署会の中で看取りの勉強会も行っており、法人全体で看取り支援に取り組んでいる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを何時でも閲覧できる場所に置いている。また、定期的に、事業所内で研修を行い周知徹底を図っている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、避難経路や避難場所の確認を行っている。消火器(水)を使ってからの消火訓練や通報装置からの通報訓練を同時に行っている。また、消防署からの講評をいただいている。	年2回、小規模及びデイサービス合同で火災・地震を想定した訓練を行っている。その際、利用者も参加している。また、内1回は消防署の立会いもあり、意見やアドバイスを貰っている。マニュアルを整備し、運営推進会議の中で参加を促している。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の個性を尊重し、その方に合った接し方ができるよう心掛けている。		よそよそしい、馴れ馴れしい言葉かけは行っており、〇〇さんを基本とし、各利用者に合わせて反応が良い呼称(先生等)で対応している。日々接遇に関して力を入れており、内部で勉強会も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自由に発言できるようにし、日々の会話の中で本人の思いをさりげなく聞き出し、自己実現できるよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、受容、傾聴の姿勢を意識し、一人一人の意向に沿った生活ができるように努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣等、自分で選べる方は、自分でコーディネートしていただいている。自己決定が難しい方は、季節に合った着衣を職員が選び、ご本人に確認後、着用していただいている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人に伺いながら、簡単な作業は一緒に行っている。同じテーブルで職員も一緒に食事し、会話しながら楽しい時間になるように努めている。		誕生日に手作りケーキを作ったり、食べたい物を提供したり、家族が好物を作って持て来たりしている。また、自宅で使用していた茶碗等を使用したり、季節の行事ごとに献立を工夫したりして、家族と連携しながら楽しく食事が出来る様に支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った食事形態とし、食べやすく工夫している。食欲がない場合には、食べたい物を伺い、少しでも食べていただけるような配慮をしている。時間毎に水分補給を促し摂取量が確保できるようにしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、自力でできるところはやってもらっている。義歯の方は外し、洗浄、磨き残しは職員が介助している。常駐の歯科衛生士や訪問歯科の方から口腔ケアの手法等を学び、実践している。			



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者毎の排泄表を記入し、職員が把握しやすいようにしている。オムツを使用している方も、トイレでの排泄を忘れないよう定期的なトイレ誘導を行っている。	各利用者の排泄パターンに合わせて、昼間はトイレ誘導している。夜間はポータブルトイレを使用したり、利用者の状態に合わせてオムツ対応したりしている。定期的なトイレ誘導することで、改善に向かっている人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士が立てた献立により、バランスの良い栄養管理ができるようにしている。水分摂取量の確保や排泄リズムの把握をし、なるべく自然排便に繋がるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望を伺いながら入りたい時に入れるようにしている。拒否がある時は無理強いない。体調を考慮しながら2日毎くらいの間隔で入浴を行っている。	週2～3回の入浴を基本としているが、希望があれば毎日の入浴も可能である。各利用者の状態・状況に合わせて、足浴・清拭・シャワー浴にも対応している。また、出来るだけ同性介助に努めたり、季節湯や入浴剤を活用しながら、楽しく入浴できる様に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、しっかり活動し、夜間はゆっくり休んでいただけようになっているが、昼間でも午睡が習慣になっている方には本人の気持ちを優先している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を基に確認、把握ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人ずつの生活歴や職歴、普段の会話などから、好きなことを導き出し、脳トレやおやつ作り、手芸などやりたいことが楽しめるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の体調に合わせ、外出が可能であれば買い物やドライブ、近くの公園等に出かけている。	敷地内を散歩したり、ベランダで布団を干したりする利用者の他、水やりが日課の利用者もいる。また、職員と一緒に神社や公園へドライブに出かけたり、家族と一緒に家に戻ったり、墓参りへ出かけたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に個人の預り金を持参し、買いたい物が購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば、電話での会話もできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度計を確認しながら空調に気をつけている。コアクリン水の加湿器を用い、空間除菌を行ったり、換気にも気を配っている。キッチンから、食材を切る音や総菜のにおいがたまたよい生活感がある。	カウンターテーブルの上に花を飾ったり、利用者の書き初め作品を壁面に掲示したりするなど、室内にいても季節が感じられる様に工夫している。また、懐かしい思い出等を見て楽しんでもらえる様、行事や家族と一緒に撮った写真をホールや廊下に掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでの座る席は固定されておらず、その日、その時にご本人が決められている。ソファに座ったり、必要に応じ、居室に椅子を持ち込んだりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込まれる物には制限はないことを、入居前に説明している。	馴染みの家族写真や帽子、布団、観葉植物など、自由に持ち込み可能であり、個々の生活習慣や趣味嗜好に配慮した居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	足元に障害物をなるべく置かないように環境を整備し、一人で歩かれても危険が少ないように配慮している。トイレの表示をし、場所がわかるようにしている。居室のドアには名前や写真を表札替わりにし、自分の部屋であることがわかりやすいようにしている。		